

平成30年度 事務事業評価シート(実施計画事業・経常事業)

事務事業名	成人保健健康診査事業			担当部	健康福祉部	担当課	保健センター	担当係	予防係					
実施計画	2	年目												
新基本計画	市政戦略編	分野別計画編	2	保健・福祉	6	健康づくり	1	心と体の健康づくりへの取組みを支援します						
予算区分	一般会計	款	4	衛生費	項	1	保健衛生費	目	1	保健衛生総務費	大	4	中	1
根拠法令・個別計画	① 健康増進法		② 高齢者の医療の確保に関する法律		③									
目的	何(誰)を対象に	20歳以上の市民												
目的	どのような状態にするか	成人保健健康診査、がん検診などを実施し、がんや生活習慣病の早期発見と早期治療の促進、並びに健康意識の向上を図ります。												
手段	どのような事業を実施するか	<p>○人間ドック ・国保被保険者、後期高齢者医療制度加入者、協会けんぽ被扶養者を対象に市内契約医療機関で実施します。</p> <p>○各種検診 ・集団検診として、胃がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がん、骨粗しょう症、肺がん喀痰の各検診を、保健センターや市民センター等で実施します。 ・個別検診として、胃がん、大腸がん、子宮がん、乳がん、胸部X線、肝炎ウイルス、前立腺がんの各検診を市内契約医療機関で実施します。</p>												
事業の概要	事業内容													
	28年度	<p>○人間ドック 受診期間について6月1日から12月31日までを翌年2月14日まで延長しました。・市内契約医療機関(31機関)にて実施し6,614人が受診しました。</p> <p>○各種検診 ・集団検診は、保健センター・北里市民センター・東部市民センター・野口会館で各検診を実施しました。胃がん22回・542人、大腸がん22回・1,241人、子宮頸がん6回・280人、乳がんマンモ・超音波28回・2,490人、骨粗しょう症5回・374人、肺がん喀痰 ・個別検診は、次のとおり市内契約医療機関(41機関)で各検診を実施しました。胃がん7,748人、大腸がん11,033人、子宮がん1,194人、胸部X線12,521人、肝炎ウイルス48人、前立腺がん4,652人 * 人間ドック健診時受診者含む ・「がん検診実施の指針」改正により、新たに胃がん検診において胃内視鏡検査(6,706人)を導入しました。* 人間ドック健診時受診者含む</p>												
	29年度	<p>○人間ドック 市内契約医療機関(31機関)にて実施し6,814人が受診しました。</p> <p>○各種検診 ・集団検診は、保健センター・勤労センター・東部市民センター・野口会館・ふらっとみなみで各検診を実施しました。また、新たに検診DAYを開催しました。胃がん14回・486人、大腸がん14回・1,073人、子宮頸がん4回・311人、乳がんマンモ12回・1,186人、乳がん超音波7回・422人、骨粗しょう症5回・345人、肺がん喀痰15人 ・個別検診は、次のとおり市内契約医療機関(41機関)で各検診を実施しました。胃がん7,780人、大腸がん11,315人、子宮がん1,808人、胸部X線12,891人、肝炎ウイルス35人、前立腺がん4,934人、★乳がん923人 ・新たに市内契約医療機関(1機関)で乳がんの個別検診を開始しました。</p>												
	30年度	<p>○人間ドック 市内契約医療機関にて実施します。</p> <p>○各種検診 ・集団検診は、保健センター・勤労センター・東部市民センター・野口会館で各検診を実施し、また検診DAY、協会けんぽ共催検診も開催します。胃がん12回、大腸がん12回、乳がんマンモ12回、乳がん超音波7回、子宮頸がん4回、骨粗しょう症4回、肺がん喀痰 ・個別検診は、次のとおり市内契約医療機関で各検診を実施します。胃がん、大腸がん、子宮がん、胸部X線、肝炎ウイルス、前立腺がん、★乳がん</p>												

	H28		H29		H30
	当初予算額	決算額	当初予算額	決算見込額	当初予算額
<b>事業費</b>					
合計	257,639	238,089	266,081	263,969	267,297
財源内訳(千円)					
国支出金	2,304	536	1,108	555	541
県支出金	3,624	3,340	3,382	3,387	3,233
地方債	0	0	0	0	0
その他	78,148	88,596	84,389	95,850	94,147
一般財源	173,563	145,617	177,202	164,177	169,376
特定財源の説明	疾病予防対策事業費補助金(国)、健康増進事業費補助金(県)、各種がん検診受診料、人間ドック検診受診料、後期高齢者医療制度特別対策補助金				
事業費内訳(千円)					
細々節	H28		H29		H30
	当初予算額	決算額	当初予算額	決算見込額	当初予算額
社会保険料・備人料	2,139	1,738	2,121	1,768	2,127
胃内視鏡検診運営委員会謝礼	93	93	108	54	54
消耗品費	100	11	100	27	100
印刷製本費	3,719	3,832	4,273	4,189	4,419
通信運搬費	1,140	1,140	1,170	1,140	1,300
電算処理委託料	500	376	500	400	500
健康診査事業委託料	249,748	230,715	257,809	256,391	258,797
備品購入費	200	184			
従事者数					
正職員(人数)		1.0		1.0	1.0
その他職員(人数)		1.0		1.0	1.0

	事業の成果指標		単位	H26	H27	H28	H29	H30
	目標	実績						
①	胃がん検診(集団・個別)の受診者数	目標	人	8,000	8,400	8,400	8,400	8,400
		実績		7,530	8,283	8,290	8,266	2,600
②	乳がん検診(集団・個別)の受診者数	目標	人	3,000	2,500	2,600	2,600	2,600
		実績		2,802	2,401	2,490	2,531	2,600
事業の活動指標				H26	H27	H28	H29	H30
①	胃がん検診(集団・個別)の開催日数	目標	回	279	281	281	275	275
		実績		279	281	283	275	275
②	乳がん検診(集団・個別)の開催日数	目標	回	24	26	20	282	282
		実績		24	26	20	282	282
事業の目標達成状況とその要因、実績増減の要因								
業績	<p>H29実施結果</p> <p>胃がん検診の受診者は全体として減少しました。人間ドックでの検診と内視鏡検診は微増しましたが、単独でのX線による集団検診と個別検診は減少しています。X線検診受診者の一部が内視鏡検診へ流れたと思われる。前年度と比べますと主に男女ともに60代の受診者の減少が目立つ結果となっていますので、60代への受診勧奨が必要と考えています。</p> <p>乳がん検診の受診者は全体として増加しました。乳がん検診では個別検診を開始して増加を見込みましたが、一部の受診者は集団検診から個別検診へ流れたと思われる期待していた結果となりませんでした。個別検診の利便性を今まで以上に市民へPRする必要があると考えています。</p>							
	今後の見通し、要因を踏まえた事業の見直し							
業績	<p>H29実施結果</p> <p>胃がん検診は60代市民への受診勧奨、乳がん検診は個別検診の利便性を市民へPRします。</p> <p>検診全体としては、各種検診の受診者数を増やし受診率を上げるために、集団検診では、一部休日検診日とし、複数のがん検診を抱き合わせで受診できる検診DAYの開催や他保健機関との合同検診を実施します。更に、集団検診の実施回数を減らし、受診する日時に幅ができて受診しやすい個別検診を受診していただくよう検診主体を個別検診へシフトして、受診しやすい体制づくりに努めます。</p> <p>また、市民への周知啓発につきましては市広報やホームページだけでなく、健康イベントや各種検診時などあらゆる機会を捉えて啓発に努めます。</p>							

事業の評価	事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの
	判定理由	本事業は、国の施策であり直接的に市民の福利に繋がるものであるため縮小とはできず、資源の投下による事業の充実でなく、事業内容の工夫で充実させ事業展開するのがよいとの考えで、事業のボリュームを維持すべきものと判定する。	